



# みなと

みなと 33号 2011年4月1日

兵庫県声の図書赤十字奉仕団

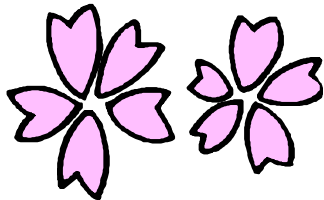
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1-4-5

日本赤十字社兵庫県支部内

(Tel)078-241-9889 (fax)078-241-6990

代表者 淡路 忠義

編集者 松本 裕子



## 特集 点字講習 ガイドヘルプ 車椅子体験

### 青少年赤十字加盟校に対する提供プログラムの実施について

青少年赤十字は、青少年が世界の平和と人類の福祉の貢献できるよう、生命と健康を守り、人間の尊厳への敬意を高めるために、日本赤十字社が取り組む青少年活動で、児童・生徒が赤十字の精神に基づき、日常生活の中で実践を通じていのちと健康を大切にし、地域社会、国家・世界のために奉仕し、世界の人々との有効親善の精神を育成するため、「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」を実践目標として、各学校のカリキュラムの中で先生方を指導者として活動を展開していただいています。日本赤十字社兵庫県支部では、青少年赤十字加盟校に対し、各教科の時間や「総合的な学習の時間」などで学校教育をサポートするため、4つのプログラム（福祉教育、健康・安全、国際理解・平和、防災教育）を提供（人材の派遣等）しています。福祉教育プログラムでは、点字講習、ガイドヘルプ、車椅子体験などのメニューがあり、平成22年度は兵庫県声の図書赤十字奉仕団員の方々（延べ109人）にご協力いただき、延べ23校で実施させていただきました。平成23年度においても本提供プログラムを積極的に実施していくこととしていますので、皆様のご協力をお願いいたします。（奉仕課）



点字班による講習の様子



ガイドヘルプの体験学習



## 点字講習に参加して

教室に入るとどんな講習が始まるのかと輝いた黒い瞳が私達を迎えてくれる。点字器を配ると「何や！これは」と驚く子もいる。対象は小学校4年生が90%だ。講習の内容は下記の4つである。

- 1 点字だけに限られた文章の書き方とその他のルールについて
- 2 50音の書き方
- 3 数字の書き方
- 4 点字器を使つての実技(氏名と生年月日を書く)

始めに教材の点字文に指先を触れ目をつぶって文字を読ませる。読める子はいないが視覚障がい者の世界を体験する一瞬である。

清音は1マス(6点)でできるが濁音や拗音は2マスを使って書く。

日本語では母音が大切であることを説明し、ヤ行とワ行以外には必ず母音が含まれていることを解らせる。この仕組みは今までに習ったなにかと似ていないかと質問すると理解の早い子はローマ字だと正しく答えてくれる。

50音の説明ではそれぞれの文字を、何点と何点かと全員大きな声で反復させながら確認していく。数字では最初に必ず数符が必要だと説明する。

子どもたちの頭は柔らかく砂にしみこむ水のようなものである。こちらの説明を聞きつつも早く点字を打ちたいと、うずうずしているのがよく分かる。

いよいよ実技に入ると自分の氏名を点字一覧表をにらみながら書き始める。しばらくするとあちこちから手が上がり近くのボランティア参加者が正しく書けているか確認をする。確認中にも私のも早く見てと後ろからつかれる事もしばしば。正しく書けた子にきれいにかけているし合格だよと言うとにっこり笑みのはじける。中にはやったあと諸手を上げる子もいる。

そんな子には次に生年月日を書くように指示する。間違つた子に点字はきれいに打っているけど1箇所まちがっているから95点やなあと言うと、なんで！どこが？と問いたです。間違い個所を指摘すると、あっそうかと納得し間違いを正そうと真剣である。

個人差があるので早い子は時間を持て余す子もあり、そんな子には今日の講習の感想を書いてもらう。或る学校で4年生の女生徒が書いてくれた感想では「今日の点字の勉強は難しかったけれどとても楽しかった。わたしの好きな言葉は絆です」と書いてくれたのが今でも心に残る。

つたない新米教師としては限られた時間内にどれだけ正しく生徒たちに伝えられたらどうかと自問自答しつつ次回にはもっと効率よくと思ひながら帰路に着く。

(あかりの会) 坂田 輝夫



## 目の不自由な方に寄り添う気持ち

ひと時、目を閉じてみて下さい。そのまま窓へ向かって歩いて行って少し窓を開けてみましょう。それだけで、指先の感触、足裏への感触、近くの物音、遠くから聞こえる騒音、そして漂ってくる匂い等々、普段気付かなかったことを感じ取れるのではないのでしょうか。

そして、私たちはいかに視覚に頼って日常生活を過ごしているかを解って頂けると思います。

目の不自由な方たちは視覚以外の感覚、記憶力、想像力を頼りに生活しておられます。そのため感性が鋭く情感が豊かな方が多いように思います。

目の不自由な方の生活は私たちが普段置き去りにしている感覚を視覚の代わりに使って、工夫を重ねながら私たちと同じように過ごしておられることを理解して下さい。

視覚障がい者が白杖を持って一人で外を歩けるようになる迄には心の葛藤を乗り越え、歩行訓練を受け、勇気と集中力が必要だと伺いました。

突然「危ないですよ！」と大声を出したり、いきなり「こっちですよ！」と腕を引っ張るとその集中力が途切れてしまいます。

「工事中ですから2～3歩左を歩いた方が良いでしょう。」「改札口までご一緒しましょうか。」と余程の危険が無い限り、静かに声をかけてお手伝いしましょう。

声をかけるだけで安心されますし、一緒に歩くことになれば、その方の歩き易いように左右どちらかの手を差し出して来られます。言葉が通じるのですから何も難しく考えることはありません。

前方と足元に注意しながら相手が歩き易いように段差は無いのか、左右どちらに曲がるか具体的な言葉で伝えて下さい。

何より相手に寄り添う気持ちが大切だと思います。

(ともしび) 田辺 依子



### 青少年赤十字福祉教育提供プログラム（車椅子体験）

福祉教育プログラムの1つとして、青少年赤十字加盟校で車椅子の体験を行っています。

街中で車椅子を使用している方々の姿を見かける光景は日常化していますが、いざ「お手伝い」となるとどうして良いのか分からない人も多く気持ちはあってもなかなか声をかけられない人が多いのが現実ではないのでしょうか。

誰の人の心にもある「やさしさ」を行動に移せるよう、正しい車椅子の扱い方や車椅子に乗っている人への安全の配慮の仕方を学んでもらっています。

この車椅子体験を通じて多くの児童・生徒の皆さんが積極的に行動できるようになり、明るい安全・安心な社会創りの一翼を担ってもらえればと願っています。(奉仕課)



## 22年度声の図書研修会



3月3日(木) 日赤兵庫県支部7階大会議室にて

参加団員約70名、フリーアナウンサー増井孝子さんをお迎えして研修会を開催した。

始めに淡路委員長から、関西のラジオで活躍する浜村 淳、やしきたかじんなど強烈な人たちを相手に活躍されているなどのプロフィールの紹介があり和やかに始まった。

まずはじめに、増井さんが仕事の先輩から言われた大切なこととして「伝える事と伝わることは違うのだ」についてのお話、伝える努力がイコール相手に思った様に伝わっているかということと必ずギャップがある。ラジオアナウンスや朗読はある程度一方通行なので自分が伝えたい事が相手に正しく伝わっているかと言う判断は大変難しい。

先生自ら席を回って連想ゲームが始まる。先生が何種類かのお題を出され何を連想するか、団員達一人一人の答えがそれぞれ違ってなかなかユニークだと先生を驚かせていた。

これは一つの言葉を聞いても人それぞれに取り方感じ方が違うのだと言うことを理解するためのゲーム。人は皆自分と同じように感じていると思うのは大きな間違いである。人はそれぞれ違うと言うことを踏まえてコミュニケーションを計らなければいけない。

朗読のテープを聞いてもらうにしても自分の気持ちの中でそういうことを解りつつ、声にはその人の気持ち、その日の心の状態は必ず出る、聴いている人には自分のその状態が必ず伝わるので怖いのだな！ということを知っておく必要がある。とくに視覚障害者の聴覚は鋭いので、常に心をナチュラルにして取り込まないといけない。「関西弁のアクセントは無声化が出来ない、母音にアクセントが来る」など、基本的なことを勉強しながら自分なりの話のスタイルを確立していけばアクセントにばかり気を取られないでも自分らしいしゃべりが出来るようになるのではないか。

本を読む場合、まず作者は何を言わんとしているのか、ストーリーのここが大事であるとわかって朗読していると相手への伝わり方が違ってくる。

トイレタイムをはさんで、**V:Voice, I:information, T:Think, A:Action, M:Manner, I:Imagination, N:Natural, S:Smile**, と**VITAMINS**それぞれの意味になぞらえてのコミュニケーションビタミン論、そして人前で話すときなどに上がらないようにするにはどうしたらいいかなど、話し方についてのお話が盛りだくさん、1時30分～3時30分まで笑いあいの精力的な楽しいお話を聞くことが出来、朗読に携わる者にとって心すべきことをまた改めて気付かせていただけたと思う。(松本)

デイジー班のこれまでとこれから

日赤兵庫声の図書赤十字奉仕団が デイジーに取り掛かったのは 大変遅かったのですが、デイジー班の総力を結集したお陰で、現時点としては、恥ずかしくないしっかりしたものを世に出すことが出来ています。

まずこのことを皆で喜び合いたいと思います。

「日赤声のアルバム」の月刊デイジー図書も、単行本デイジー図書も、これまでの歩みは困難続きでした。デイジー編集の仕方、その指示の意味、機器の操作、リスナーさんの状況など、知らねば出来ないことが山積していました。パソコンの前で途方に暮れたことも一度や二度ではありません。でもそんな時、ボランティア仲間の明るさと奉仕精神の強さがここまで押し上げてくれましたし、何よりこの図書を心待ちにしておられるリスナーさんの笑顔が大きな支えであったと感じています。

困難が無ければ、単に無難に通り過ぎてさほど努力もしなかったのですが、困難がたくさん有った為に、自負かもしれませんが、より良い作品が生まれ、慎重な活動体制が整い、団結力が増し、本当に有難いことだと思っております。

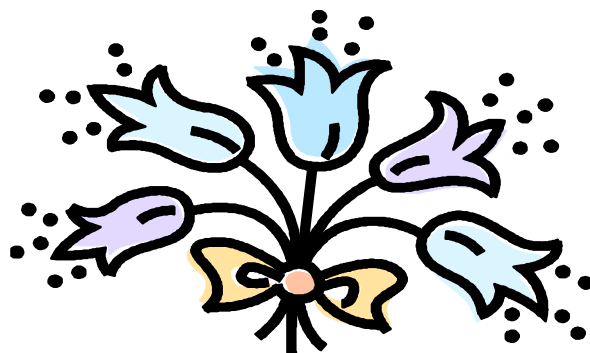
組織的には各グループのデイジー編集係を基盤に、マザー作成班（神戸YWCA・こすもす・青年）、発送作業班（ことばの花束・そよかぜ・ともしび）、返却受入班（あかり・あけぼの・はあもにい）がしっかりと機能し、3月には機器管理班も出来て、ますます協力体制が整ってきました。

テープ図書ではリスナーさんに諦めていただいていた、「頁付け」とか「索引」等が、デイジーでは本と同じように威力を発揮し生きてきます。デイジー図書ならではの醍醐味で、格別の感慨があります。

デイジー図書環境としては、テープ入手が困難になりつつあり、これからは、直接録音が不可避です。オーディオキャプチャー使用か、高性能マイクか、ICレコーダーか、もっと別の方法があるかの試行段階に入っています。うさぎ跳びのようにはいきませんが、地に足のついた歩みを続けて参ります。

そしていつも私達の活動を温かく見守り、支援して下さる日赤のご期待にも応えられるよう、皆で力を合わせて頑張りますので、これからもよろしくお願い致します。

（青年グループ） 水口 克子



## 点字班

「点字にかかわって」

リスナーから届いた点字のお手紙を読めるようになりたいという気持ちから、点字班の活動に参加しました。最初は、点字の規則に戸惑い、打ちながらも気持ちが萎えてしまうこともありました。それでも、テープラベル・折り紙メッセージ作り、学校講習に参加していくなかで、経験ある先輩方から多くの刺激を受け、またリスナーからのお便りや子供たちの笑顔に励まされながら今年も続けることができました。

活動していく中で忘れてならないのは、基本が全てにつながるということです。心を込めて作ったテープやCDを気持ちよく聴いて頂くためにも、正しくテープラベルを打つこと。また学校講習においても、子供達に点字を理解してもらおうのはもちろんですが、大切さや楽しさも伝えることなど。これからもひとつひとつの作業を大切に、点字にかかわっていきたいと思います。活動日は毎月第3火曜日 10:00～15:00 グループの枠を超えて参加してみませんか。

(はあもにい) 久保田加奈女



## 単行図書検討会

平成22年度 単行図書の貸し出し状況をお知らせします。

(H22年3月1日～H23年2月28日)

☆新刊登録は、35冊(うち4冊はダイジー版のみ、テープ総数は104本)です。

内訳は、リスナーさんのリクエスト本・・・22冊

(希望図書)

自薦本・・・・・・・・・・・・・・ 12冊

推薦本・・・・・・・・・・・・・・ 1冊 です。

☆貸し出しは、約 420冊です。

内訳は、テープ版・・・・・・・・・・約267冊(テープ 約 1324本)

ダイジー版・・・・・・・・・・ 約153冊(CD 約153枚)です。

ダイジー版貸し出しが、増えてきました。

会では、ダイジー化に向け、「ダイジー編集連絡書」を作り、「図書登録台帳」の記入項目を新しくしました。

なお、録音者は、前もってダイジー編集者を決めてから録音を始めると、校正済みのテープからダイジー編集が出来るので より早く リスナーさんにお届けできます。

次に、昨年9月から見直してきた『録音テープ制作マニュアル』の改訂版ができました。4月に配布予定です。「枠アナウンス用紙」も作りました。録音順に必要な項目を記入するようになっていきますのでご利用ください。

4月以降は、この改訂版に沿って単行図書録音をして下さい。

今年度も、リスナーさんからのリクエスト本を募り、自選、推薦本を含め、単行図書の充実を図っていきたくと考えています。皆様のご協力を よろしくお願い致します。

(ことばの花束) 山田 嘉代子

昨年4月18日に開催された声の図書総会で、グループに分かれて、話し合いが行われたのをおぼえていらっしゃるでしょうか。確か「活動する上で、問題点を考える」というようなテーマだったと思います。その中から浮かびあがって来たのが、読み方の基準が、グループあるいは個人毎にまちまちであるということでした。

たとえば、数字の0を「ゼロ」ではなく「レイ」と読む、約は「ヤク」ではなく「オヨソ」と読む、といったことです（これはNHKのニュースを注意して聞いていただければ、納得出来ると思います）。

それから、PHPなどにおいて、タイトル、筆者の肩書き、筆署名、プロフィール等の読み順が、PHP録音マニュアルがあるにもかかわらず、きちんと守られていない、などの問題点が浮かびあがって来たのです。

そこで、これは、グループの枠を越えて、公平な眼で朗読テープを見直さなければいけないのではということになりました。そして、出来るだけ各グループからメンバーを出してほしいと声をかけて立ち上がったのが「日赤声奉の朗読・音訳を見直す会」なのです。

なかなか具体的な動きが出来なかったのですが、まずは、1番多くの団員がかかわっている「PHP」を試聴することから始めようということになり、2010年も終りに近い頃から活動を開始しました。

その結果、意味が変わってしまうアクセントの違い、鼻濁音、母音の無声化、長音など、根本的な所で、大きなレベルの違いがあることが分かりました。

夫々のグループに指導者がおられるので、あまり重箱の隅をつつくようなことはしないように意識しながら・・・

(はあもにい) 阿部 陽子



## リスナーお便りコーナー



### 牧野 まりえさん

明けましておめでとうございます。

8月号から入会させていただきました。柴橋祐子さんのつながりから当会の出会いを得ました。花時計1月号のお雑煮の話題です。私の故郷鳥取も多くはぜんざいです。気が引けていましたが石川県もと聞きななかほっとしました。アズキは元々祝い事につきものだから自信を持とうと石川県の話題から心がすっきりしました。

### 鈴木 美智子さん

PHP 1月号楽しく聴かせていただきました。1月号も楽しくて、松下幸之助さんの言葉とか色々な記事を聞かせていただいて、やはり人生というもの本当に落ちるとこまで落ちたら這いあがるだけで、私の人生はずっと上ることはありませんけれど・・・と二人のお子さんが交通事故にあわれたたことでご苦労された様子を詳しくお話し下さっています。でも今はお子さんお二人も元気になられ40代だそうです。

### 山本 美千子さん(石川県)

全盲ですが、まだ聞くことが出来るのでテープを聞くのがとても楽しみです。また色んなテープを聞かせてください。石川県は大雪で山のように積もっています。2月2日に89歳の誕生日を迎えましたが、元気で一人暮らしを楽しんでいます。今日の幸せを大切に感謝をしながら生きています。また楽しいテープをお送り下さい。

### 香山 良樹さん

声のアルバムありがとうございます。今年は、なるべく自分のためになる話を聞きたいと思っています。僕にとって為になる話をありがとうございます。ようやく厳しい季節が一段落しそうですね。日赤グループの皆様の健康守られますように。

### 島貫 信子さん

新年明けましておめでとうございます。ことしもお世話になります。昨年はホームの人たちにもノロウイルスが出ましたが、皆さん治って新年を迎える事が出来ました。

### 石川県 山本美千子さん

単行図書「阿弥陀堂だより」ご感想

たかおとみちこは、貧しいながら助け合い、励ましあって、仲良く生活する姿、みちこが病気の時、男性でありながら台所に立って料理する姿・・・立派だなと思涙が出ました。

一人ひとりが、与えられた苦労の道を、愚痴など言わずお互い励ましあい、助け合ってきたからこそ、可愛い子供にも恵まれ、家族が仲良く暮らせることを、わがことのように嬉しく思いました。最後まで涙ながらに聞かせていただきました。ありがとうございました。

温かい真心、心から感謝いたします

### 西田 とみ子さん

こんにちは。長きにわたり聴かせていただきましてありがとうございました。今回で終わりにしたいと思います。「又聴ける状態になったらお願いします」とのことでした。





## 花時計へのお便り

松本 民雄さん

いつも楽しい情報を聞かせていただきまして、ありがとうございます。京丹後市網野町は、昨年の暮は猛吹雪で大変でした。今月の花時計(1月号)は、とても楽しく聴かせていただきました。その中で「楽器の世界へ小旅行」のコーナーはとても楽しく聴きました。私は「ピッコロバイオリン」と言う楽器があったなどは始めて知りました。7月号「花時計」は、民族楽器の特集なので私は楽しみです。

トルコの民族楽器3種類の音楽を収録して下さっています。

鈴木 美智子さん

花時計1月号ありがとうございます。

皆さんの故郷のお雑煮、所によって違うんですね。それぞれ食べてみたいような気がします。私は石川県に住んでいますが、実家は富山県です。主人は福井県で角餅、私は丸餅、所に鈴よって違うことを初めて知りました。

今年も1年間、皆様の元気なお声を聞いて、また私も癒されます。ご自分の生活の様子などたくさんお話頂いて、元気に外出などなさっている様子はいかがでした。

松本 民雄さん

花時計2月号、楽しく聴かせていただきました。

卒業式で歌われている「仰げば尊し」はどここの国の歌だと思いませんか？

1月26日付の「点字」JBニュース第4719号」にこの歌は最初は作者不詳と紹介されていました。ある大学教授が調査したところ、この歌はアメリカの歌だと解ったそうです。原題は「song for the close of school」だそうです。

## 花時計プログラム

1月号 「神戸YWCA」

A面 1・「楽器の世界へ小旅行」(大阪音大音楽博物館)

2・新しい単行図書とデイジー図書ご案内

B面 3・近藤 富士子さんの「カタールだより」

4・お便りコーナー

2月号 「こすもす」

A面 1・インタビュー「60周年を迎える王子動物園」

B面 2・河合和子の旅便り

「ハワイカウアイ島での休日」

3・あの日あの味「大和煮」

4・野の花だより365日より「沈丁花」

5・新しい単行テープとデイジー図書ご案内  
サヨナラのあいさつ

3月号 「あかりの会」

A面 1・「日赤ドクター健康講座」

神戸赤十字病院 松井隆先生に聞く

2・お便りコーナー

3・朗読「須磨と菅原道真」

B面 4・朗読「じろはったん」

5・新しい単行テープのご案内

4月号 「ともしび」

1・中国の竹笛 ディーズ (笛子)

2・養源院と智積院

3・河井 寛治郎記念館

